
メイちゃんの執事～4年後～

マローダ（ゴーシュ・スエード）&ぬらリクオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メイちゃんの執事〜4年後〜

【Nコード】

N2812P

【作者名】

マローダ（ゴーシュ・スエード）& a m p ;ぬらリクオ

【あらすじ】

まめしばこと柴田剣人がSランク執事になるため外国に旅立って4年後研修を終え無事Sランク執事になり日本へ帰ってきた剣人。空港の出口にはメイのお爺ちゃんのパートナーであるマナミが現れる。はたしてマナミは誰なのか…なんの為に剣人の前に現れたのか…そしてSランク執事になる前まだ見習いだった頃にいた聖ルチア女学院に戻って来る。がしかし帰ってきてお帰えりなさいパーティーをやっている最中倒れてしまう。なぜ剣人はパーティーの途中で倒れてしまったのか…

続きはこの夢小説で？

メイちゃんの執事（前書き）

あまりうまく無いですが頑張りましたので評価と問題点を教えて下さい？

メイちゃんの執事

このお話は東雲メイに使えるSランク執事柴田理人の周りに起こる出来事：

とある日理人の弟剣人がSランク執事になるため外国に旅立った4年後の出来事

～空港に剣人が～

剣人『ふう…やっと日本に着いたか』

??『お待ちしておりました剣人様』

剣人『誰だ?』

??『私は東雲家のお祖父様から剣人様を迎えに行ってきた欲しいと言われました。私の名前はルナ聖ルチア女学院の最高責任者です。』

剣人『校長か?』

ルナ『はい只今メイ様は授業中の為私がお迎えにあがりました。』

剣人『わかった』

ルナ『では聖ルチア女学院へ戻りましょう剣人さん』

剣人『ああ』

～聖ルチア女学院～

ルナ『つきましたよ剣人さん』

剣人『あつ…ああ』

マナミ『懐かしいでしょう?剣人さん』

剣人『はい』

マナミ『では教室へ』

剣人『ああ』

～教室～

マナミ『みなさん剣人さんが帰ってきましたよ』

みんな『ウソっ?』

マナミ『本当です今はまだ来ませんが…』みんな『なんで？』

マナミ『それは秘密です』

みんな『えっ…』

マナミ『明日には教室へ来るでしょう』

みんな『わかりましたマナミさん』

マナミ『わかっていただけたならいいです』

みんな『うん』

『なぜ剣人が教室へ来ないかと言うと』

剣人『ゴホッ　ゴホッ　ゴホッ』

マナミ『大丈夫ですか？剣人さん』

剣人『まあなんとかな』

マナミ『無理しないで下さいね剣人さんあなたは病気なんですから』

剣人『ああ…それよりメイにはこの事バレてないよな？』

マナミ『はい　メイさんはもちろんお兄さんやみなさんには知らせてません』

剣人『ならいいんだ』

マナミ『剣人さん』

剣人『なんだ？』

マナミ『明日体調が良ければ久しぶりにメイ様達に会われては？』

剣人『体調が良ければな』

マナミ『はい？』

『次の日』

マナミ『剣人様お身体は平気ですか？』

剣人『ああ平気だ』

マナミ『ではメイ様達に会われるのですね？』

剣人『ああ』

マナミ『注意事項が3つあります。1つは前みたいに接する事（これは剣人さんが病気だと言う事を知られない為です）2つ目はあまり無茶をしない事3つ目は無理せず風邪気味だといいその場を離れ

る事（もちろん理人さんにきずかれないうちに）この3つですわ
かりましたか？』

剣人『ああわかった』

マナミ『では教室へ』

剣人『ああ』

～教室～

マナミ『剣人さんが来ましたよみなさん』みんな『ウソっ』

マナミ『剣人様教室へ』

剣人『ああ』

～剣人が教室へ～

剣人『みんな久しぶりだな～よつめがねうどん』

メイ『なによめしば？』

剣人『久しぶりに聞いたなその言葉』

メイ『修行に出てる間手紙もよこさないでなにしてたのよ？』

剣人『ちよつと忙しくてな』

メイ『ならいいんだけど…』

マナミ『さてと4年ぶりの再会した事だし休みの日剣人君お帰りな

さいパーティーしますか』

みんな『いいですね校長』

マナミ『じゃあ休みの日剣人君お帰りなさいパーティーしましょう

？』

みんな『はい？』

マナミ『では私はこれで失礼します。4年ぶりに会った友達どうし

仲良く会話して下さい。』

みんな『はい』

～小声で剣人に言う～

マナミ『剣人君』

剣人『なんですか？』

マナミ『なるべく無理しないで下さいね剣人君やバイと思ったらコ
レを押して下さいすぐ駆けつけます』

剣人『ああ』

マナミ『駆けつけて来た時怪しまれないよう風邪気味なので医務室に運びますって言うので安心して下さい』

剣人『わかった』

マナミ『ピンチの時駆けつけます』

剣人『ああ』

マナミ『ではみなさん楽しい会話を』

みんな『はい』

マナミが退出し

剣人『じゃあ楽しい会話をするか』

みんな『そうだな』

剣人『みんな質問ないか？』

メイ『ある』

剣人『なんだ？めがねうどん』

メイ『Sランク執事になれたの？』

剣人『ああ』

メイ『すごい？』

剣人『まっまあな』

理人『だがなぜマナミ校長といたんだ？』 剣人『ちよつとな』

理人『言いたくないならいいんだ』

剣人『ありがとな兄貴』

理人『ああ』

とその時剣人が倒れ

『ドサツ』

理人『どうした？剣人？』

剣人『これで マナミを呼んで くれ』

理人『ああわかった もしもしマナミ様』 マナミ『なに？理人さん』

理人『剣人が倒れたんです』

マナミ『わかったすぐ行く』

教室へ

マナミ『大丈夫？剣人様』

剣人『……』

マナミ『とりあえず医務室に運びますみなさんは教室で待機して下さい。もちろん理人さん達も』

理人『あっはい』

メイ『まめしばは大丈夫なんですか？』

マナミ『大丈夫？ただの風邪だから』

メイ『そう…ならよかったです』

医務室へ

マナミ『剣人さん大丈夫ですか？』

剣人『なんとか』

マナミ『無理しちゃダメって言ったじゃないですか？』

剣人『すまん？』

マナミ『わかっていただければいいんです。』

剣人『なんでマナミはこの学園の校長やってるんだ？』

マナミ『まあメイ様のお祖父様から頼まれてね』

剣人『なにをだ？』

マナミ『剣人様が帰ってきてからの面倒とルチア女学院の校長となりメイを守ってくれとお祖父様から頼まれてね』

剣人『メイのジジイとどういう関係なんだ？』

マナミ『メイ様のお祖父様とは祖母の代からのパートナーで世界の5本の指に入る会社の社長ですよ？』

剣人『えっ…じゃあマナミは社長& a m p ;校長してるのか？』

マナミ『はいそうですよ？』

剣人『会社は忙しく無いのか？』

マナミ『まあ忙しいですがたまに校長業務もやってますので。無下にメイ様のお祖父様のお誘いを断れませんしね』

剣人『そうか…』

マナミ『剣人さん私明日本業の方に1日つきっきりなので代わりに

すつこいたよりがいがある友人に頼んでおきます。』

剣人『わかった』

マナミ『その友人は剣人さんが病気の事や理人さんの弟だと言う事も剣人さんに関する物をすべて教えときましたので明日はこき使つてやって下さい。それとメイ様達にバレぬよう口止めしときました。』

剣人『ありがとな何から何まで頼んで』

マナミ『いえ私はメイ様のお祖父様のパートナーとして当然の事をしただけですから気にしないで下さい剣人さん』

剣人『ああ』

マナミ『では私はこれで失礼します』

剣人『きおつけてなマナミ』

マナミ『はい？』

『次の日』

??『初めましてマナミさんの代理で来ましたカレンです』

剣人『あんたがマナミの友人か』

カレン『はい？』

剣人『全部わかってるんだな？』

カレン『はい全部マナミから聞きました』剣人『ならいい』

カレン『今日は教室へついて行きます。校長代理として授業を見させて頂きます』

剣人『わかった　しかしメイ達には言ったのか？』

カレン『いえまだ言ってません』

剣人『じゃあ教室で言うのか？』

カレン『はい』

剣人『わかった』

カレン『では教室へ行きましょう剣人様』剣人『ああそれとみんなの前では様はつけなくていい』

カレン『わかりました剣人様』

剣人『じゃあ行こうカレン』

カレン『はい？』

　　教室へ

剣人『よっ？みんな』

メイ『昨日は大丈夫だったの？』

剣人『ああ心配かけたなめがねうどん』

メイ『まめしば…』

理人『それより後ろにいる方は…』

剣人『コイツはマナミ校長の友人。今日はマナミ校長は仕事があるため1日いなくて変わりにカレンが来た』

カレン『よろしく願います。みなさん』

みんな『はいよろしく願いますカレンさん』

カレン『今日1日校長代理として学園にいます。』

みんな『わかりましたカレンさん』

カレン『では授業に入って下さい』

みんな『はい？』

　　数時間後

先生『これで授業を終わります。次は休みの時間です。』

みるく『やっと終わったか』

大門『お疲れ様ですみるく様』

みるく『ああ』

カレン『剣人さん次は体育の時間です。』 剣人『わかったカレン』

カレン『すぐお支度を』

剣人『わかった』

　　体育館へ

カレン『つきましたので私は端の方で見えていますので安心を』

剣人『ああ』

　　そして数時間後

剣人『ふう…終わった…』

カレン『お疲れ様です剣人さん』

剣人『ああ』

カレン『今日の授業はおしまいです寮へ戻りましょう剣人さん』
剣人『ああ』

く寮へく

カレン『体育の時間発作もなく無事やれていましたね剣人様』
剣人『ああ』

カレン『明日はマナミが戻って来ますので』

剣人『ああわかった』

く次の日く

マナミ『只今戻りました』

カレン『お帰りマナミ』

マナミ『ただいまカレン』

カレン『剣人様の役にたてたよマナミ』

マナミ『よかった…』

カレン『剣人様の元へ行こ？マナミ』

マナミ『うん？』

く剣人の元へく

マナミ『剣人様体は大丈夫でしたか？』

剣人『ああ大丈夫だ。カレンが見てくれたからな』

マナミ『カレンに頼んで正解でした』

剣人『ああカレンはもう来ないのか？』

マナミ『いえ私が忙しい時は頼みますが…』

剣人『カレンはこの学校なんだ？』

マナミ『カレンは執事養成学校の女の子です』

剣人『えっ…なぜマナミが執事養成学校に友達が…』

マナミ『カレンは幼なじみです幼稚園の頃からの。しかし高校は別の道にすすみました』

剣人『へえ…』

マナミ『カレンは執事養成学校に私は普通の高校に行きました。そして2年前執事養成学校に父の頼みで行き、奇跡的に出会いました。』

』

剣人『わかった』

マナミ『カレンを剣人様の専属執事にしますか？』

剣人『よろしく頼む』

マナミ『わかりました明日からカレンが剣人様の専属執事です。』

剣人『わかった』

マナミ『では私はこれで失礼します』

剣人『ああ』

〕 続く 〕

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2812p/>

メイちゃんの執事～4年後～

2010年12月4日06時10分発行